

ベニツチカメムシの生存特性 ～ 子育てをする里山のカメムシ ～

藤條 純夫 氏

(佐賀大学農学部 名誉教授)

日時：2008年1月22日（火）16：30～18：00

会場：明治大学生田キャンパス 中央校舎 0412教室

ベニツチカメムシはベニツチカメムシ科に属する体長約2cmの美麗種で、九州北部を北限として済州島、沖縄、台湾、中国雲南省にも分布が確認されています。本種の生息域や生活環は、唯一の餌であるボロボロノキ（ボロボロノキ科）の果実に完全に依存しており、ボロボロノキが結実する5月初旬に一致して繁殖期に入り、その他の長い期間は薄暗い林の中で常緑樹やシダ類に集団を形成して休眠しています。本種は生態学的、生理学的に多くの特徴を持っていますが、そのひとつに「子育て」が挙げられます。雌成虫は落葉中に作った巣から出て、自分の体よりも大きなボロボロノキの実を、時には10m以上の道のりを何度も子供たちの待つ巣へと運びます。こうした本種の行動は、昆虫の社会性の進化を探る絶好の材料としても注目されています。

本研究の舞台となった『日の隈山』は、佐賀市の北部に位置する里山です。日の隈山は一時、新たな道路建設のために造成され姿を消す危機に陥りました。演者はじめ多くの市民が立ち上がり、ベニツチカメムシは何とか生きながらえることが出来ました。これからも彼らを育む自然が残されていくよう心から願っています。

藤條氏は糸山の学生時代の指導教官です。数年前に退官された筈なのですが、今でも毎日のように大学に現れて精力的に研究を続けていらっしゃるそうです。後期試験前の忙しい時期だと思いますが、勉強の合間の休憩を兼ねて、不思議な虫の世界に目を向けてみませんか？

問い合わせ：農学部 応用昆虫学研究室

糸山 享（内線：7810）